

## Lesson1

# 文型 (SV) /サルも木から落ちる

Even monkeys fall from trees.

日本語では「私は歩く。」などのように「は」を付けることで文の主語を表現します。英語では**単語を並べる順番自体に意味**があります。これが**文型**の基本的な考えかたです。順番をきちんと理解することがとても大切です。英語には5つの**文型**があります。**文型**の中でもっともシンプルな形が**SV型**です。「サルも木から落ちる。」は**Even monkeys fall from trees.** という**SV型**の文になります。

このレッスンを受講することで、文型(SV)について理解できます。

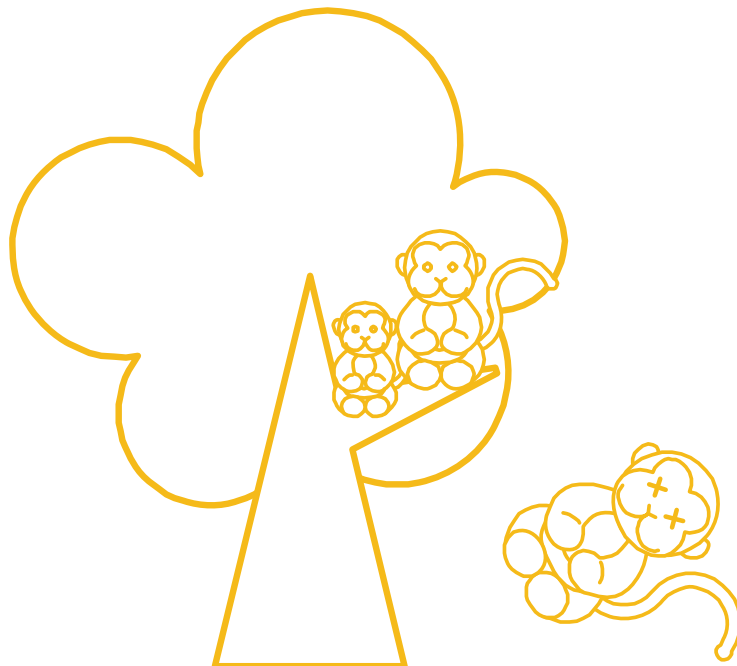
## Topics

文型(SV)/Even monkeys fall from trees.

- Topic1 SV型の構成
- Topic2 SV型の例文
- Topic3 語順の注意点
- Wrap-up

DVD版では練習問題の解説も行います。

## Even monkeys fall from trees.



## ■ Topic1

### SV 型の構成

英語の文は日本語と違い、**<主語+述語動詞+その他の要素>**という語順で英語の文を作ります。「その他の要素」とは、目的語、補語、追加情報のことです。

**SV 型**は**主語(S)**と**述語動詞(V)**で構成される英語の文です。

- ・英語の文の基本形：**<主語+述語動詞+その他の要素(目的語・補語・追加情報)>**
- ・SV 型の基本形：**<主語+述語動詞(+追加情報)>**

例：

(1) **I work.** 「私は働いています。」

主語(S)	述語動詞(V)
I	work

(2) **John is standing.** 「ジョンは立っています。」

主語(S)	述語動詞(V)
John	is standing

(3) **Visitors can rest in this room.** 「訪問客はこの部屋で休むことができます。」

主語(S)	述語動詞(V)	追加情報
Visitors	can rest	in this room

主語(S)：

**主語**とは**文の主人公**のことです。**主語**になることができるのは、**I**のように**代名詞(主格)**、**(the) man** や **visitor(s)** のように**名詞**、その他にも**動名詞**、**不定詞**、**名詞節**なども**主語**になることができます。(動名詞や不定詞などについて、詳しくはレッスン 19,20 参照)

主語になる主な単語の例：

代名詞の主格：**I, you, she, he, we, they, it** (代名詞や格については、レッスン 10 参照)

名詞：**man, woman, girl, boy, tourist, teacher, student, computer, radio, company, plan** など。

固有名詞：**John, Nancy, Tetsuo, Mr. Wood, Ms. Brown, Dr. Wang, Prof. Lautenberg**

述語動詞(V)

**述語動詞**は主語の**動作**や**状態**について述べます。(1)では**述語動詞**が **work** という 1 語の動詞ですが、(2)や(3)では **is standing**、**can rest** が**述語動詞**となります。**is standing** は動詞 **sit** の現在進行形で、**be** 動詞+動詞の **ing** 形で 1 つのまとまりとなります。(進行形について、詳しくはレッスン 21 参照)また、**can rest** は動詞 **rest** (休む) に助動詞 **can** (～できる) を付け加えた形です。(助動詞について、詳しくはレッスン 15 参照)ここで**述語動詞の中心となっているのは is (be**

動詞)、**can** (助動詞) ではなく **stand** 「立つ」と **rest** 「休む」の**動詞**です。どの文型をとるかは動詞の意味がカギとなります。

### 追加情報 :

文型の構成のみでは言い切れない情報を「前置詞+名詞」(前置詞句)や「副詞」により追加することができます。(前置詞や副詞についてはレッスン 12、16 を参照)特に **SV 型**はシンプルなので何らかの**追加情報**がついていることが多いです。上の(3)では **in this room** 「この部屋の中で」が**追加情報**となっています。

## Topic2

### SV 型の例文

**SV 型の例文**と**構成**を紹介します。

**The young lawyer is waiting for his client.** 「その若い弁護士は彼の顧客を待っています。」

主語(S) 冠詞+形容詞+名詞 The young lawyer (その若い弁護士)	述語動詞(V) be 動詞+動詞の ing 形 is waiting (待っています)	追加情報 前置詞+代名詞+名詞 for his client (彼の顧客を)
--	--	---

**We must study hard for the exam.**

「私たちはその試験に向けて一生懸命勉強しなければなりません。」

主語(S) 代名詞 We (私達)	述語動詞(V) 助動詞+動詞 must study (勉強しなければならない)	追加情報 副詞 hard (一生懸命)	追加情報 前置詞+冠詞+名詞 for the exam (その試験のために)
----------------------	---	---------------------------	--

**Mr. Green walks to Shibuya station on a sunny day.**

「グリーンさんは晴れた日は渋谷駅まで歩きます。」

主語(S) 名詞 Mr. Green (グリーンさん)	述語動詞(V) 動詞 Walks (歩きます)	追加情報 前置詞+名詞 to Shibuya station (渋谷駅まで)	追加情報 前置詞+冠詞+形容詞+名詞 on a sunny day (晴れた日に)
-----------------------------------	-------------------------------	--	--

## Topic3

### 語順の注意点

下の例のように文型の順番を変えるのは、文法として適切ではありません。例えば、今回の **SV** 型の文では **S**、**V**、追加情報の順番を変えることはできません。

正：

**I jog in the park on the weekend.** 「私は週末に公園でジョギングしています。」



主語(S)

I(私)

述語動詞(V)

jog  
(ジョギングする)

追加情報 1

in the park  
(公園の中を/公園で)

追加情報 2

on the weekend  
(週末に)

誤：

**I on the weekend in the park jog.**



主語(S)

I(私)

追加情報

on the weekend  
(週末に)

追加情報

in the park  
(公園の中を/公園で)

述語動詞(V)

jog(ジョギングする)

SV 型の基本的な語順は「主語 + 述語動詞 (+ 追加情報)」であることを理解しておきましょう。

### スコアアップ！

(DVD 版のみ収録)



(例題) \_\_\_\_\_ can rest in this room.

- a. Visitors
- b. Visits
- c. Visiting
- d. Visited

文の構成が分かれば、どの位置にどのような品詞が入るべきかがある程度予想できます。例題では下線部に主語になることができるもの(名詞、動名詞・不定詞などの名詞句、名詞節)が入ることが分かります。また **can rest** の意味が「休むことができる」と理解できれば、この主語は人を意味する名詞が適切であることが想像できます。そうすれば、**a.Visitors** 「訪問客」を選ぶことができます。

**Visitors can rest in this room.** 「訪問客はこの部屋で休むことができます。」

**e**ven 「～でさえ」(副詞)といきなり難しい単語が出てきてしまいましたが、**Even monkeys fall from trees.** 「サルでさえ木から落ちる(サルも木から落ちる)。」の **even** がないと意味がずいぶん変わってしまいます。**Monkeys fall from trees.** にすると「サルは木から落ちる。」という意味になります。また、**even** の位置を変えて **Monkeys fall even from trees.** にすると「サルは木からでさえ落ちる。」のような意味になります。

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

## Wrap-up

- 英語の文の基本形：主語＋述語動詞＋その他の要素
- SV 型の基本形：主語＋述語動詞（＋追加情報）
- 動詞の意味が文型を決めるカギとなる。



**Even monkeys fall from trees.**  
**「サルも木から落ちる」**

主語(S)	述語動詞(V)	追加情報
Even monkeys(サルも)	fall (落ちる)	from trees (木から)

## Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. They \_\_\_\_\_.
  - a. run.
  - b. hard
  - c. the man
  - d. every day
2. He \_\_\_\_\_ for the company.
  - a. jobs
  - b. works
  - c. specialists
  - d. vocational
3. \_\_\_\_ jogs in the park every day.
  - a. He
  - b. Her
  - c. Walk
  - d. Hard

## Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. Fans \_\_\_\_\_ for the arrival of the movie star.
  - a. were applying
  - b. were studying
  - c. were searching
  - d. were waiting
2. The man \_\_\_\_\_ to the station yesterday.
  - a. commuter
  - b. walked
  - c. jogging
  - d. automobile
3. This type of audio player \_\_\_\_\_ very well last year.
  - a. bought
  - b. liked
  - c. sold
  - d. chose

## Explanation - Practice

(DVD 版のみ収録)

### 1. **They run.** 「彼らは走ります。」

解説： **They** は主語ですので、**a. run.** 「走る」(動詞) をつけると **SV** 型の文が成り立ちます。

**b. hard** 「堅い」(形容詞)・「一生懸命」(副詞)、**c. the man** 「その男性」(名詞)、**d. every day** 「毎日」(副詞) では文が成り立ちません。文を構成するには動詞が必要となるためです。

### 2. **He works for the company.** 「彼はその会社で働いています。」

解説：主語の **He** に、**b. works** 「働く」(動詞の三人称単数現在形) を付けると **SV** 型の文が成り立ちます。

**a. jobs** 「仕事」(名詞の複数形)、**c. specialists** 「スペシャリスト」(名詞の複数形)、**d. vocational** 「職業上の」(形容詞) では文を構成することができません。**SV** 型の文を構成するためには動詞が必要です。

### 3. **He jogs in the park every day.** 「彼はその公園の中で毎日ジョギングしています。」

解説：**jogs** は「ジョギングをする」という意味の動詞(三人称単数現在形)で、述語動詞です。**a. He** 「彼」(代名詞) を付けると、**He** が主語になる **SV** 型の文が成り立ちます。

**b. Her** 「彼女の」(**she** の所有格、目的格) は主語になることができません。**c. Walk** には「歩く」(動詞) や「散歩」(名詞) という意味もありますが、「散歩」を主語にすると文の意味が成り立ちません。

**d. Hard** 「堅い」(形容詞)・「一生懸命」(副詞) は主語になることはできません。

## Explanation - Homework

### 1. **Fans were waiting for the arrival of the movie star.** 「ファン達はその映画スターの到着を待っていました。」

解説：**d. were waiting** 「待っていました」(**be** 動詞の過去形+動詞の **ing** 形) を付けると文の意味が成り立ちます。選択肢はいずれも動詞の **ing** 形のものでから文法的には問題は無いように思えます。そこで、それぞれの動詞の単語の意味を考え、最も適切な物を選びます。

**a. were applying** 「申し込んでいました」(**be** 動詞の過去形+動詞の **ing** 形)、**b. were studying** 「勉強していました」(**be** 動詞の過去形+動詞の **ing** 形)、**c. were searching** 「探していました」(**be** 動詞の過去形+動詞の **ing** 形) のどれも **SV** 型を構成する動詞ですが、意味を考えると **for the arrival of the movie star** 「その映画スターの到着を」にうまくつながるのは **d.** だけです。なお、**a** の **apply** は他動詞で「～を適用する、～を塗る」などの意味もあります。

### 2. **The man walked to the station yesterday.** 「その男性は昨日駅まで歩いて行きました。」

解説：**b. walked** 「歩いた」(動詞の過去形) を付けると後ろの **to the station** にもつながり、全体の意味も成り立ちます。問題文には述語動詞がありません。そこで、まず空欄には述語動詞を入れることを見極めます。また、**yesterday** 「昨日」とあることから時制が過去形の動詞が適切であると判断し

ます。そこで選択肢では唯一動詞の過去形である **walked** が適切であることが分かります。

**a. commuter** 「通勤者」(名詞)、**c. jogging** 「ジョギング」(名詞、動詞の **ing** 形)、**d. automobile** 「自動車」(名詞) では文を構成することはできません。

**3. This type of audio player sold very well last year.** 「このタイプのオーディオプレーヤーは昨年よく売れました。」

解説 : **c. sold** 「売れた」(動詞の過去形) が正解です。この問題文にも述語動詞がありません。そこで、まず空欄には述語動詞を入れることを見極めます。ただし、選択肢はすべて動詞の過去形であるため、意味や動詞の特性から検討をします。主語である **This type of audio players** に続く述語動詞の意味を考えると、**sold** 「売れた」が最も適切であることが想像できます。なお、この問題は動詞の種類、つまり自動詞 or 他動詞というポイントからも検討することができます。**sell** には「売れる」という意味の自動詞があるので SV 型の文を構成できます。その他の **a. bought** 「買った」(動詞の過去形)、**b. liked** 「気に入った」(動詞の過去形)、**d. chose** 「選んだ」(動詞の過去形) は他動詞なので目的語が必要です。自動詞と他動詞については、レッスン 14 にて詳しく解説します。

#### 重要 :

他動詞と目的語 : **I like Thai food.** 「私はタイ料理が好きです。」の **Thai food** 「タイ料理」(形容詞+名詞) が **like** の目的語にあたります。このように動詞の対象となる語句のことを目的語といい、目的語をとる動詞のことを他動詞といいます。また、目的語をとらない動詞は自動詞です。SV 型の動詞は目的語をとらないので自動詞です。

#### 注意 :

**sell** は「～を売る」という意味の他動詞として使われることが多い動詞です。

例 : **The man sells bananas for living.** 「その男性はバナナを売ることによって生計を立てています。」  
この文では **bananas** が **sell(s)** の目的語となっています。意外にも **sell** に自動詞の使い方があるため、TOEIC(R)TEST でもポイントにされることがあります。